

令和6年度学校評価						学校の分析	学校運営協議会での意見	
義務教育学校の特色を最大に生かし、将来の夢や目標がもてるふるさと・キャリア教育の充実を図る。	将来の夢や目標をもっているか						<ul style="list-style-type: none"> ・学園生の評価は高い。子ども達としては、頑張っていることが分かる。それに對して教師の評価は低くなっている。教師の想いが強くているということだと考えられる。 ・アンケートの項目によつては、複数の意味が含まれていることがある。分けた方がもっと正確に評価が上がってくるものがあるのではないか。 ・保護者向けのアンケートに関しては、PTA執行部など、保護者の意見も取り入れてみてはどうか。 ・学校からはホームページの更新など、よくなされていいると感じる。学級通信や各種の便りなどは、種類によつては配信形式のほうが保護者に届くのではないか。プリントではなかなか目を通さなくても、配信であれば目を通す保護者もいるのではないか。 	
	学園生	自分で将来の夢や目標を決めて学習を進めたり、学校生活を送ったりしていますか。	3.2	2.9	<ul style="list-style-type: none"> ○学級・学年・教科担任等で目標をもつて学習を進められるよう支援を行った。 ●キャリア教育のさらなる充実を図り、将来の夢や目標をもてるような取組の工夫を行いたい。 			
	保護者	お子さんは、自分で将来の夢や目標を決めて学習を進めたり、学校生活を送ったりしていますか。	2.7					
	教師	子どもは、自分で将来の夢や目標を決めて学習を進めたり、学校生活を送ったりしていますか。	2.8					
	ふるさと・キャリア教育は充実しているか							
	学園生	ふるさと学習や教科の学習で木城のよさを見つけることができましたか。	3.4	3.2	<ul style="list-style-type: none"> ○総合的な学習の時間等を通して、ふるさと教育・キャリア教育の充実を図ることができた。 ○異学年交流を通して、伝え合う力の育成を図った。 			
	保護者	お子さんは、ふるさとに愛着をもっていると思いますか。	3.0					
	教師	キータイムや生活科を中心に、ふるさと教育やキャリア教育を充実させていますか。	3.2					
	分かりやすい授業の実践はできているか							
	学園生	授業はよくわかりますか。	3.5	3.1	<ul style="list-style-type: none"> ○木城スタンダードを活用して「めあて」と「まとめ」の整合性を意識した授業づくりを行つた。 ○ICTを積極的に活用し、授業改善に務めた。 ○少人数指導により、算数・数学や英語の基礎・基本の定着を図つた。 			
	保護者	お子さんは、授業の内容がよく分かっていますか。	3.0					
	教師	子どもは、授業の内容がよく分かっていますか。	2.9					
学ぶ楽しさがあふれる学校（知）	家庭学習は充実しているか						<ul style="list-style-type: none"> ・夢実現の基盤となる確かな学力の定着のために、魅力ある分かりやすい授業の実践と家庭学習の充実を図る。 ・社会に開かれた教育課程のもと、地域との連携・協働による教育活動を推進する。 ・積極的な情報発信に努め、家庭や地域との連携を図る。 	
	学園生	宿題など家の学習にしっかりと取り組んでいますか。	3.5	3.2	<ul style="list-style-type: none"> ○学級・学年・教科担任等で家庭学習について、手本を示すなどして指導し、学園生に課題意識をもたせることで、家庭学習を充実させることができた。 			
	保護者	お子さんは、宿題などの家庭学習にしっかりと取り組んでいますか。	3.1					
	教師	子どもは、宿題などの家庭学習にしっかりと取り組んでいますか。	2.9					
	地域との連携・協働による教育活動を推進できたか							
	学園生	地域の人と一緒に学習はよくわかつたり、ためになつたりしましたか。	3.4	3.2	<ul style="list-style-type: none"> ○地域コーディネーターと連携し、地域人材・素材を活かした授業実践を全学年で行うことができた。 ○総合的な学習の時間等を中心に、地域の人材を活用した取組を積極的に取り入れた。 			
	保護者	学校は地域の人材・素材を活用した学習活動を積極的に進めることに努めていると思いますか。	3.1					
	教師	地域との連携・協働を意識した計画の立案や事後の改善に努めていますか。	3.0					
	積極的な情報発信に努めたか						<ul style="list-style-type: none"> ・積極的な情報発信に努め、家庭や地域との連携を図る。 	
	学園生	学校からのプリントは必ずお家の人にわたしていますか。	3.5	3.3	<ul style="list-style-type: none"> ○定期的に通信を発行し、ホームページ等の更新も隨時行つた。 			
	保護者	学校は学級通信や学校だより・各種だより、ホームページ等を活用した情報発信に努めていると思いますか。	3.2					
	教師	学級通信や学校だより・各種だより、ホームページ等を活用した情報発信に努めていますか。	3.2					

やさしさとあいさつがあふれる学校（徳）	人間関係の醸成と人権感覚の育成を図れたか						<ul style="list-style-type: none"> ・学園生たちの評価が高く、保護者、教師の評価がどれも低い傾向にある。 ・学園生たちは、あいさつなどをしっかりと頑張っていると感じているようで、自己肯定感が高い。それに對して、保護者や先生たち大人がそのポイントを下回っているのは、期待値があるからではないか。 ・大人が学園生と同じぐらいの視点で評価してあげられたら、数値も変わってくるのではないか。 ・あいさつについて、保護者の評価については、校内外でのあいさつの状況で数値化されたと思うが、発達段階等を考えて評価をすれば、変わってくるのではないか。 ・朝の登校班の班長があいさつをすれば、自然と下級生もあいさつをするようリーダー（先輩）の役割が大きいと感じている。そういう学園生を育てていきたい。 ・問題の未然防止について、学校側は教育相談期間やその都度チャンス相談を行っているが、そのことが保護者には伝わっていないのではないか。 ・教育相談でどうすることを行っているのかを情報発信することで、保護者も安心して子どもを学校に送り出しができるのではないか。例えば、教育相談アンケートがどういう内容なのかななどを共有することで、学校への理解が深まるのではないか。 	
	学園生	学校では、周りの人と仲良く過ごすことができていますか。	3.7	<ul style="list-style-type: none"> ○各学級を中心に、望ましい人間関係づくりに努め、道徳教育や人権教育の充実を図った。 				
	保護者	お子さんは、学校で周りの人と仲良く過ごすことができていますか。	3.5					
	教師	道徳教育や人権教育の充実に努め、互いの個性を認めあえる人間関係づくりを行っていますか。	3.1					
	子どもの実態やニーズに応じた特別支援教育を推進できたか							
	学園生	自分にあったペースで、学校生活を送ることができますか。	3.6	<ul style="list-style-type: none"> ○「特別支援教育推進委員会」を定期的に開催し、学園生の変容を追跡・共通理解し、教育活動に活かした。 				
	保護者	お子さんは、自分に合ったペースで、学校生活を送ることができますか。	3.4					
	教師	子どもの個性に寄り添った指導を行っていますか。	3.3					
	あいさつはできていたか							
	学園生	すすんであいさつができますか。	3.6	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の見守り隊の方々の朝の活動やPTAの交通立番指導を通して、学園生のあいさつの励行が図られた。 ●自分のあいさつについて振り返らせる機会を定期的に設けて、継続して気持ちのよいあいさつができる学園生の育成に努めたい。 				
	保護者	お子さんは、あいさつができますか。	3.1					
	教師	子どもは、あいさつができますか。	2.5					
	いじめ防止に努めたか							
	学園生	いじめは絶対にしない、させないと心がけていますか。	3.8	<ul style="list-style-type: none"> ○「いじめ・不登校対策委員会」を定期的に開催し、学園生の変容を追跡・共通理解し、きめ細やかな生徒指導を行うことができた。 				
	保護者	お子さんは、いじめは絶対にしない、させないと心がけていますか。	3.4					
	教師	いじめは絶対に「しない、させない、許さない、見逃さない」指導の徹底を図りましたか。	3.6					
	問題行動の未然防止に努めたか							
	学園生	先生は相談や悩みを聞いてくれますか。	3.8	<ul style="list-style-type: none"> ○いじめアンケートや教育相談アンケートを定期的にとり、必要に応じて教育相談を行い、積極的な生徒指導に努めた。 ●教育相談について、必要に応じて内容を保護者と共有することで、学校と家庭の連携を強化していきたい。 				
	保護者	お子さんは、先生に相談したり悩みを聞いてもらったりしていると思いますか。	2.7					
	教師	子どもの悩みや相談に適切に対応していますか	3.4					

学校生活での成就感や満足感を高めるために子どもたちの主体的な活動を促し、安心して学校生活を送ることのできる環境を充実させる。	子どもたちが主体的に活動できていたか					
	学園生	自分で計画を立てたり、考えて行動したりすることができますか。	3.3	2.9	○行事や児童生徒会活動等では、学園生が主体となって計画を立て運営できるように支援した。 ●学園生が主体的に行動できるような特別活動の工夫を行いたい。	・全ての項目で自己評価は学園生が高く、大人が低い。大人は理想（基準）が高い一方で、学園生の自己肯定感が高いという見方もあるが、学園生の「できている」「やっている」の基準そのものがどうなのか考える必要はある。その中でもとりわけ「起きる時間や寝る時間などの規則正しい生活」と「食育の充実」については学園生と教師の差（ギャップ）があり、検証の必要性がある。
	保護者	お子さんは、自分で計画を立てたり、考えて行動したりすることができますか。	2.8			・1～9年のデータの中身が知りたい。学年の傾向等が分かれば対策も考えやすい。別途、3つのステージごとの集計などを出してよいのではないか。
	教師	子どもは、自分で計画を立てたり、考えて行動したりすることができますか。	2.5			・「起きる時間や寝る時間などの規則正しい生活」は、学年や家庭によって差があるのではないか。発達段階に応じた「適正な睡眠時間」を示してあげるとだいたいの基準が目標となり、それを子どもと大人が共有して実践するという形にすれば、評価により信頼性が出てくるのではないか。
健康教育は推進できたか（規則正しい生活）						
明るく元気があふれる学校（体） 健康・安全・防災教育の推進と食育の充実を図る。	学園生	起きる時間、寝る時間など規則正しい生活を心がけていますか。	3.3	2.8	○アウトメディア週間を設けて啓発活動を行い、規則正しい生活習慣について意識を高めることができた。 ●学園生自らが考えて規則正しい生活習慣を身に付けられるような取組が必要である。	・「起きる時間や寝る時間などの規則正しい生活」は、学年や家庭によって差があるのではないか。発達段階に応じた「適正な睡眠時間」を示してあげるとだいたいの基準が目標となり、それを子どもと大人が共有して実践するという形にすれば、評価により信頼性が出てくるのではないか。
	保護者	お子さんは、起きる時間、寝る時間など規則正しい生活を心がけていると思いますか。	2.8			・「起きる時間や寝る時間などの規則正しい生活」は、学年や家庭によって差があるのではないか。発達段階に応じた「適正な睡眠時間」を示してあげるとだいたいの基準が目標となり、それを子どもと大人が共有して実践するという形にすれば、評価により信頼性が出てくるのではないか。
	教師	子どもは、起きる時間、寝る時間など規則正しい生活を心がけていると思いますか。	2.4			・「起きる時間や寝る時間などの規則正しい生活」は、学年や家庭によって差があるのではないか。発達段階に応じた「適正な睡眠時間」を示してあげるとだいたいの基準が目標となり、それを子どもと大人が共有して実践するという形にすれば、評価により信頼性が出てくるのではないか。
	健康教育は推進できたか（病気予防）					
	学園生	手洗いやうがい等、家や学校で自分の健康に気を付けて過ごすことができていますか。	3.6	3.1	○日常の指導や、委員会活動を通して病気予防への意識を高めることができた。 ●学園生が自ら考えて、感染症対策ができるような取組が必要である。	・「食育の充実」については、朝食をしっかりとっているのか、また、その中身は何なのか（バランスのよい朝食なのか）の調査もして欲しい。それによって、対応や対策をしていかなければならない。
	保護者	お子さんは、手洗いやうがい等、家や学校で自分の健康に気を付けて過ごすことができていますか。	3.1			・学園生の評価が高いのは、「これくらいでいいか」というような曖昧な自己評価基準のようなものがあるのではないか。だからこそ、適正な（大人が理想と考える）基準、などを「教える」「知らせる」「理解させる」ことが必要ではないか。家庭や親によってその基準はそれかもしれないが、「子供の健全な成長」のために、学校や運営協議会が標準的な基準（目安）を出してよいのではないか。
	教師	子どもは、手洗いやうがい等、家や学校で自分の健康に気を付けて過ごすことができていますか。	2.8			・学園生の評価が高いのは、「これくらいでいいか」というような曖昧な自己評価基準のようなものがあるのではないか。だからこそ、適正な（大人が理想と考える）基準、などを「教える」「知らせる」「理解させる」ことが必要ではないか。家庭や親によってその基準はそれかもしれないが、「子供の健全な成長」のために、学校や運営協議会が標準的な基準（目安）を出してよいのではないか。
	安全・防災教育は推進できたか					
	学園生	いざというときに、自分の命を守る行動がとれますか。	3.6	3.2	○避難訓練を通して、学園生に「自分の命は自分で守る」という意識を高めることができた。 ○町より防災ヘルメットの贈呈があった。 ●日常的に、水難事故や交通安全に対する意識を高める必要がある。	・学園生の評価が高いのは、「これくらいでいいか」というような曖昧な自己評価基準のようなものがあるのではないか。だからこそ、適正な（大人が理想と考える）基準、などを「教える」「知らせる」「理解させる」ことが必要ではないか。家庭や親によってその基準はそれかもしれないが、「子供の健全な成長」のために、学校や運営協議会が標準的な基準（目安）を出してよいのではないか。
	保護者	お子さんは、いざというときに、自分の命を守る行動がとれると思いますか。	3.0			・学園生の評価が高いのは、「これくらいでいいか」というような曖昧な自己評価基準のようなものがあるのではないか。だからこそ、適正な（大人が理想と考える）基準、などを「教える」「知らせる」「理解させる」ことが必要ではないか。家庭や親によってその基準はそれかもしれないが、「子供の健全な成長」のために、学校や運営協議会が標準的な基準（目安）を出してよいのではないか。
	教師	子どもは、いざというときに、自分の命を守る行動がとれると思いますか。	2.9			・学園生の評価が高いのは、「これくらいでいいか」というような曖昧な自己評価基準のようなものがあるのではないか。だからこそ、適正な（大人が理想と考える）基準、などを「教える」「知らせる」「理解させる」ことが必要ではないか。家庭や親によってその基準はそれかもしれないが、「子供の健全な成長」のために、学校や運営協議会が標準的な基準（目安）を出してよいのではないか。
	食育を充実させることができたか					
発達段階に応じた体力向上の手立てを実践する。	学園生	給食は好き嫌いをせずに食べていますか。	3.4	3.0	○昼の放送で日常的に食育に関するについて情報を発信し、学園生の職に対する意識を高めることができた。 ○給食委員会の活動を通して、残菜ゼロを意識させることができた。	・学園生の評価が高いのは、「これくらいでいいか」というような曖昧な自己評価基準のようなものがあるのではないか。だからこそ、適正な（大人が理想と考える）基準、などを「教える」「知らせる」「理解させる」ことが必要ではないか。家庭や親によってその基準はそれかもしれないが、「子供の健全な成長」のために、学校や運営協議会が標準的な基準（目安）を出してよいのではないか。
	保護者	お子さんは、好き嫌いをせずにご飯を食べていますか。	2.9			・学園生の評価が高いのは、「これくらいでいいか」というような曖昧な自己評価基準のようなものがあるのではないか。だからこそ、適正な（大人が理想と考える）基準、などを「教える」「知らせる」「理解させる」ことが必要ではないか。家庭や親によってその基準はそれかもしれないが、「子供の健全な成長」のために、学校や運営協議会が標準的な基準（目安）を出してよいのではないか。
	教師	子どもは、好き嫌いをせずに給食を食べていますか。	2.6			・学園生の評価が高いのは、「これくらいでいいか」というような曖昧な自己評価基準のようなものがあるのではないか。だからこそ、適正な（大人が理想と考える）基準、などを「教える」「知らせる」「理解させる」ことが必要ではないか。家庭や親によってその基準はそれかもしれないが、「子供の健全な成長」のために、学校や運営協議会が標準的な基準（目安）を出してよいのではないか。
	体力向上できたか					
部活動の充実を図るとともに、これから時代に合った部活動を推進する。	学園生	学校生活の中で体力をつけたりや健康でいるための活動（昼休みの活動、クラブ活動、部活動を含む）に積極的に参加していますか。	3.3	3.0	○体力テストの分析を行い「スクールスポーツプラン」を作成し、体育科の授業を中心に、落ち込んでいる項目の体力向上に努めた。 ○「コミュニティスクールだより」を通して「徒歩通学」や「自転車通学」を奨励し、自力通学での体力向上について啓発した。 ●体力テスト分析の結果を活かした日常的な体力向上の手立てを講じる必要がある。	・学園生の評価が高いのは、「これくらいでいいか」というような曖昧な自己評価基準のようなものがあるのではないか。だからこそ、適正な（大人が理想と考える）基準、などを「教える」「知らせる」「理解させる」ことが必要ではないか。家庭や親によってその基準はそれかもしれないが、「子供の健全な成長」のために、学校や運営協議会が標準的な基準（目安）を出してよいのではないか。
	保護者	お子さんは、学校生活の中で体力をつけたりや健康でいるための活動（昼休みの活動、クラブ活動、部活動を含む）に積極的に参加していると思いますか。	3.0			・学園生の評価が高いのは、「これくらいでいいか」というような曖昧な自己評価基準のようなものがあるのではないか。だからこそ、適正な（大人が理想と考える）基準、などを「教える」「知らせる」「理解させる」ことが必要ではないか。家庭や親によってその基準はそれかもしれないが、「子供の健全な成長」のために、学校や運営協議会が標準的な基準（目安）を出してよいのではないか。
	教師	子どもは、学校生活の中で体力をつけたりや健康でいるための活動（昼休みの活動、クラブ活動、部活動を含む）に積極的に参加していると思いますか。	2.8			・学園生の評価が高いのは、「これくらいでいいか」というような曖昧な自己評価基準のようなものがあるのではないか。だからこそ、適正な（大人が理想と考える）基準、などを「教える」「知らせる」「理解させる」ことが必要ではないか。家庭や親によってその基準はそれかもしれないが、「子供の健全な成長」のために、学校や運営協議会が標準的な基準（目安）を出してよいのではないか。
	部活動は充実させられたか					
	学園生	部活動の内容は充実していますか。	3.4	3.3	○部活動指導員の協力により、社会体育との連携を図ることができた。	・学園生の評価が高いのは、「これくらいでいいか」というような曖昧な自己評価基準のようなものがあるのではないか。だからこそ、適正な（大人が理想と考える）基準、などを「教える」「知らせる」「理解させる」ことが必要ではないか。家庭や親によってその基準はそれかもしれないが、「子供の健全な成長」のために、学校や運営協議会が標準的な基準（目安）を出してよいのではないか。
	保護者	部活動の内容は充実していると思いますか。	3.1			・学園生の評価が高いのは、「これくらいでいいか」というような曖昧な自己評価基準のようなものがあるのではないか。だからこそ、適正な（大人が理想と考える）基準、などを「教える」「知らせる」「理解させる」ことが必要ではないか。家庭や親によってその基準はそれかもしれないが、「子供の健全な成長」のために、学校や運営協議会が標準的な基準（目安）を出してよいのではないか。
	教師					・学園生の評価が高いのは、「これくらいでいいか」というような曖昧な自己評価基準のようなものがあるのではないか。だからこそ、適正な（大人が理想と考える）基準、などを「教える」「知らせる」「理解させる」ことが必要ではないか。家庭や親によってその基準はそれかもしれないが、「子供の健全な成長」のために、学校や運営協議会が標準的な基準（目安）を出してよいのではないか。